

平成29年度 研究成果発表会プログラム

開会		10:00
1	『伊豆大島の特産花きブバルディアの新品種育成を目指して』 ～新品種として有望な個体を作り出しました～	園芸技術科 宮下 千枝子 10:05 ~ 10:20
2	『生息域を拡大しているシカはどこからきたのか』 ～DNA解析を用いた行動範囲の判別～	緑化森林科 畑 尚子 10:20 ~ 10:35
3	『ワケネギの残留農薬』 ～農薬の残留性を調査しました～	生産環境科 小山 知生 10:35 ~ 10:50
4	『収穫作業の向上をめざしたコマツナ生産管理方法の改善』 ～コマツナの束ね作業性を向上させます～	江戸川分場 森 研史 10:50 ~ 11:05
5	『リン酸過剰の畑とどう付き合うか』 ～畑にたまったリン酸を有効に使う目安をつくりました～	生産環境科 坂本 浩介 11:05 ~ 11:20
6	『乳牛の暑熱対策』 ～夏場はシャワーで乳量・乳質の低下を抑えます～	畜産技術科 平塚 徹也 11:20 ~ 11:35
7	『東京2020大会に向けた「夏花による緑化マニュアル」の作成』 ～真夏のオリンピック・パラリンピックを花いっぱいに彩ります～	園芸技術科 岡澤 立夫 11:35 ~ 11:50
休憩		11:50 ~ 13:10
特別講演 『ウイルスを媒介するアブラムシやコナジラミなどの生態と防除対策』		13:10 ~ 14:10
休憩		14:10 ~ 14:25
8	『施設トマトの需要拡大に向けた高糖度化技術の開発』 ～甘いトマトを作る方法を紹介します～	園芸技術科 木下 沙也佳 14:25 ~ 14:40
9	『ナシにおけるハダニ類の実態解明と防除対策』 ～難防除害虫であるハダニ類の効率的な防除体系を構築しました～	生産環境科 飯塚 亮 14:40 ~ 14:55
10	『キウイフルーツ「東京ゴールド」の栽培技術の開発』 ～東京生まれのキウイフルーツのブランド化をめざします～	園芸技術科 杉田 交啓 14:55 ~ 15:10
11	『河川・海浜敷等の緑化に向けた樹種の選定』 ～都市の緑化に使える乾燥等に強い植物を紹介します～	緑化森林科 佐藤 澄仁 15:10 ~ 15:25
12	『小笠原諸島近海のソデイカを利用した水産ねり製品の開発』 ～ふわっとしたかまぼこと、もちっとしたソーセージをつくります～	食品技術センター 野田 誠司 15:25 ~ 15:40
13	『東京型統合環境制御生産システムの開発』 ～トマトやキュウリの収量を飛躍的に高めます～	生産環境科 中村 圭亨 15:40 ~ 15:55
閉会		16:00

特別講演 『ウイルスを媒介するアブラムシやコナジラミなどの生態と防除対策』 ～都市の集約的園芸生産の安定化に向けて～

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業研究センター
産学連携コーディネーター 本多 健一郎 氏

アブラムシやコナジラミなどの微小害虫は、各種の植物ウイルスを媒介することにより農業生産に重大な被害をもたらします。虫媒性ウイルス病の流行には、媒介虫以外にも様々な生態的環境要因が関わっています。北日本のダイズ産地で発生するダイズわい化病と温暖地のトマト施設栽培で問題となるトマト黄化葉巻病を例として、媒介虫の発生生態と保毒率の調査に基づいた虫媒性ウイルス病の流行要因解析と対策技術について紹介します。

<本多 健一郎(ほんだ けんいちろう)氏 プロフィール>

農林水産省東北農業試験場、農業研究センター、農研機構中央農業総合研究センター病害虫研究領域長、野菜茶業研究所長などを経て、2017年4月より中央農業研究センター産学連携コーディネーター。主な研究課題としては、「アブラムシの多型とウイルス病媒介に関する研究(1988-2002)」、「コナジラミのウイルス病媒介と防除に関する研究(2003-2011)」。

推進リーダーを担当した主な研究プロジェクトは、新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「果菜類の新規コナジラミ(バイオタイプQ)等防除技術の開発(2006-2008)」, 農林水産省委託プロジェクト「害虫の光応答メカニズムの解明及び高度利用技術の開発(2009-2013)」など。

